

言語力を育てるカリキュラム と 授業のために

秋田喜代美
(教育心理学コース)

ことばの教育とカリキュラム

- 学ぶ力の根幹としての読解力低下の議論
- 情報化、グローバル化の中での変化として
 - ・ ・ ・ つながりを希求する軽い言葉の氾濫と沈黙への恐れ
 - ・ ・ ・ 言葉をかかわすことによる異質性、特異性の自覚と承認によるアイデンティティ形成の機能が弱まっている。
 - ・ ・ ・ 日本語のよさと言葉の豊かさや美しさの感覚の衰退
 - ・ ・ ・ ビジュアルメディアによる活字、本の文化の衰退

新学習指導要領における「言語力の育成」

- 言語機能：コミュニケーション機能と思考深化機能
- 言語力の認識：個人内能力だけではなく、協働でより深い思考や表現へと導く言語の働きを重視。
学級集団関係の力を育成
- すべての教科を対象：各教科固有の学習語彙や
リテラシーの習得（学習語彙、教科表記・表現）
- 文化的実践としての言語活動：活動の道具（本、辞書、新聞、レファレンスなど）、言語教養としての各言語文化固有の知識習得（古典、詩歌など）、活動の場としての学校図書館等の活用

改訂点に対応して問われること

- 言葉で表現し対話することや、教材の言葉や事実に戻り吟味することで理解を深めることが、授業の中でどれだけ行なわれているか？
- クラスの中でさまざまな活動を通して協働で言葉で表現することで学びあう力や風土の育成がなされているか？
- 国語のみならず各教科で、
体験・直感-日常言語・表現-学問用語・概念・表記
の相互関連をつなぐ指導が体系的になされているか？
- 教科書とノートだけではなくさまざまな外部資源や場を
活用することで、学問教養の世界を広げているか？

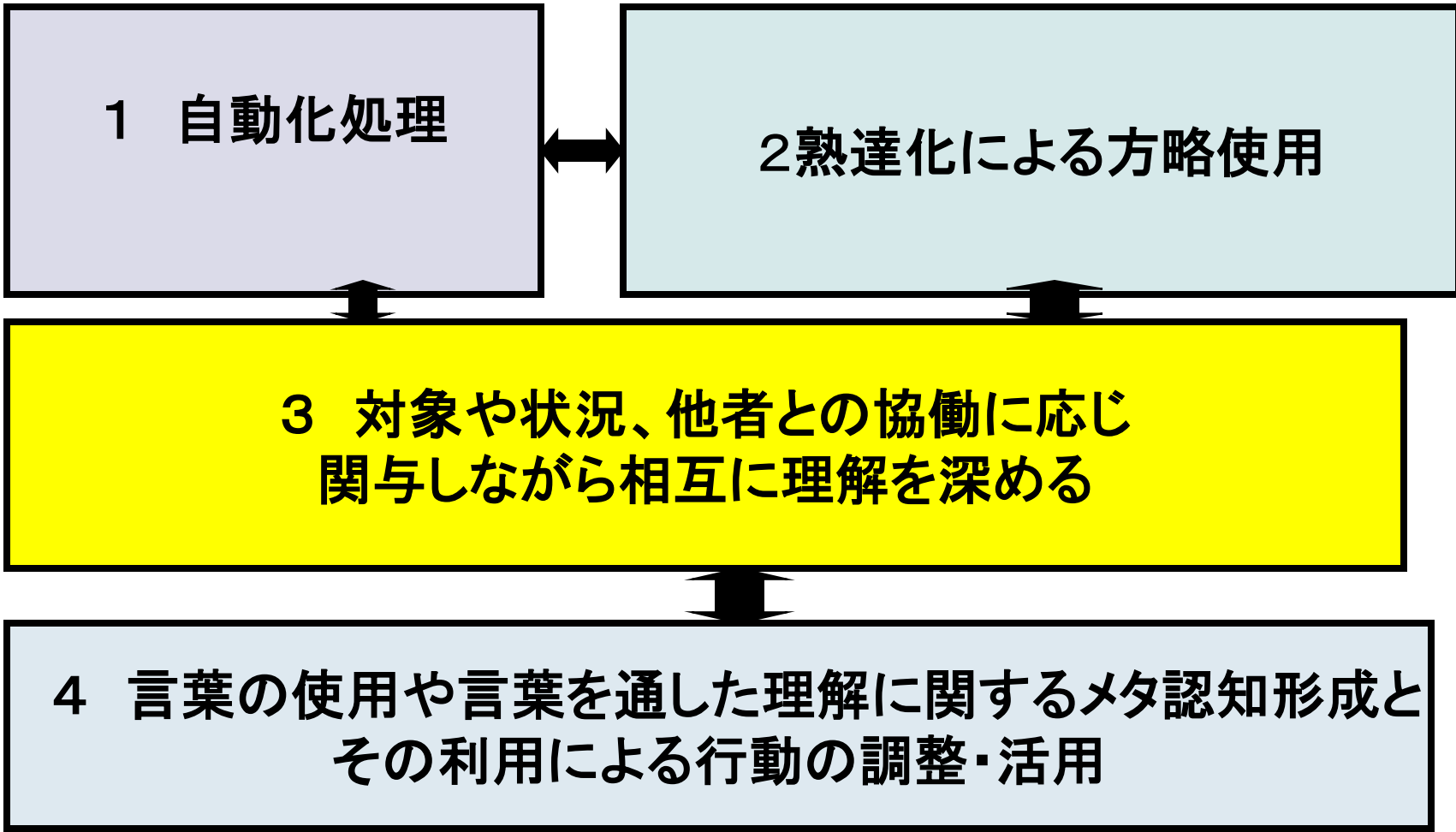
言語力が育つ場での課題

- 生徒 国語はどのように学習したらよいかわからない。勉強の仕方がわからない。何のために学ぶかがみえない。
- 教師
 - ・コミュニケーションが教師からの情報提示、生徒同士の話し合いと同値に置き換えられ、量と活発さに注目。思考する課題と考えるための間の構成、思考する言葉の質とそのプロセスが議論されることが少ない。
 - ・「教材と子どもをつなぐ」「子どもと子どもをつなぐ」ための言葉の指導が体系的に実施されていることが少ない。
 - ・良質の言語文化、言語作品と出会う機会が設けられていない。教師が言語の教養と文化にふれていない。

□学校

- ・授業研究や校内研修でも一般的な方法論や教材の話が多く、授業中の具体的な言葉にふれて議論できる機会と専門的力量が十分とはいえない。
- ・児童生徒の言葉、表現の差異より、考え方の違いだけが論じられ、精緻化による理解深化過程を重視した議論が時間との関係で少なくなっている。

学びあう授業での言葉の力の要素
聴く・読む・話す・書くの相互関連の中で



1 自動化処理

2 熟達化による方略使用

3 対象や状況、他者との協働に応じ
関与しながら相互に理解を深める

4 言葉の使用や言葉を通じた理解に関するメタ認知形成と
その利用による行動の調整・活用

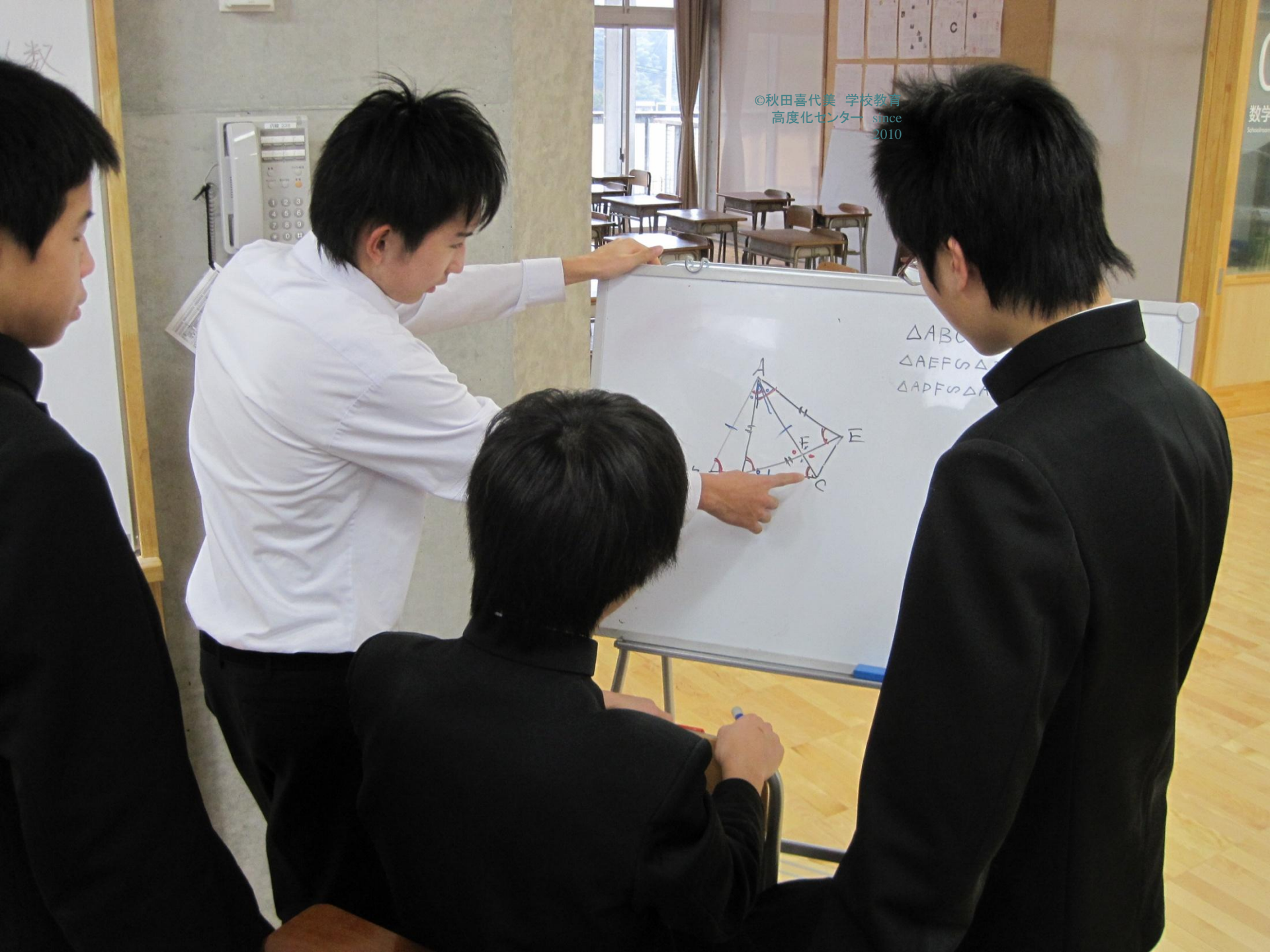
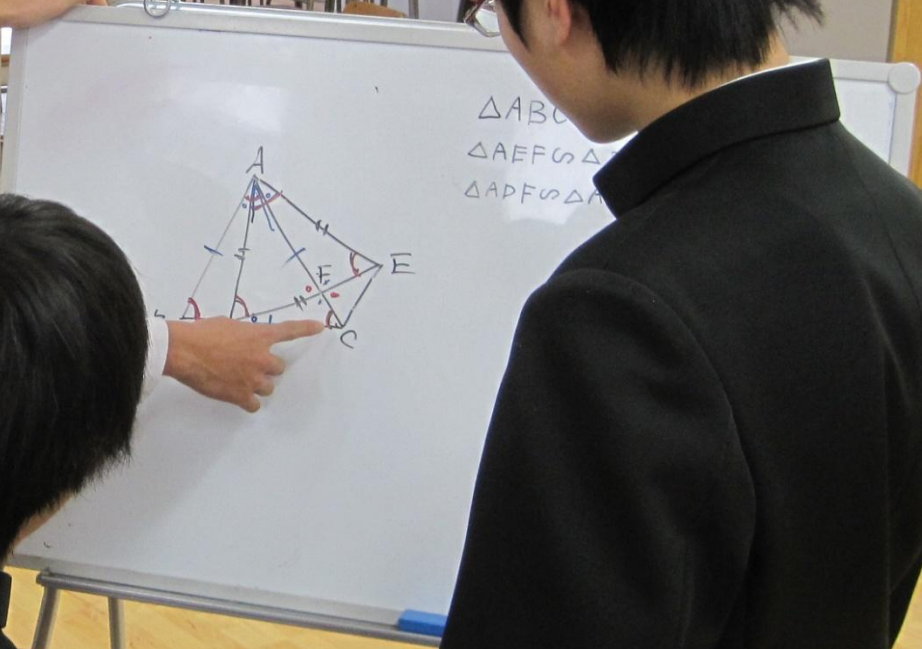
例 学びの習慣としての聴くことの指導

聴き応えある内容と技能が身につく指導

- 1 自動化 語彙の豊かさ
聴く一見るの関係、身体的な集中、没頭
- 2 方略 いくつかの水準の聴き方の熟達
教室でのグラウンドルールとしての提示
- 3 状況に応じた聴き方
言語的、非言語的な宛名性と応答性
割り込みをしない、人数に応じた談話ルール
- 4 聴くことと話す、読む、書くの行動の関連付け
訊き方（話す）、ノートやメモ（書く）、
板書とMyノート（読む）

聴くことの方略（一柳、2009から）


- A 態度：正しい姿勢を取る、話し手の方に姿勢をむける、自分の言いたいことを抑え、まず他の人の話に耳を傾ける
- B 発言の客観的な理解：内容を正しく聴き取る、言葉の間違いに気付く
- C 話者に寄り添う聴取：話者に共感的になる、話者の発言背景を推論、話の内容を思い浮かべ聴く、自分の知識に固執しない
- D 発言文脈に即した理解：要点把握、内容をそれ以前の話と関連付けて捉える、先を予測して聴く
- E 批判的聴き方：自分の考えと批判的に結びつける話から新しいことを発見する、疑問と照らして聴く
自分の考えとの内容の相違を把握、聴取内容で不明点を明確化、自分の言いたい内容をより明確化



$$x \times \frac{a^2 + b^2}{c} = c \times c$$
$$a^2 + b^2 = c^2$$

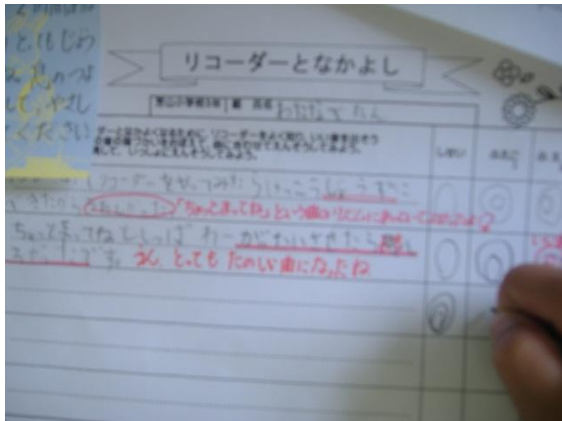


$$c : a = a$$
$$c : b = \frac{a^2}{c}$$



振り返りの視点

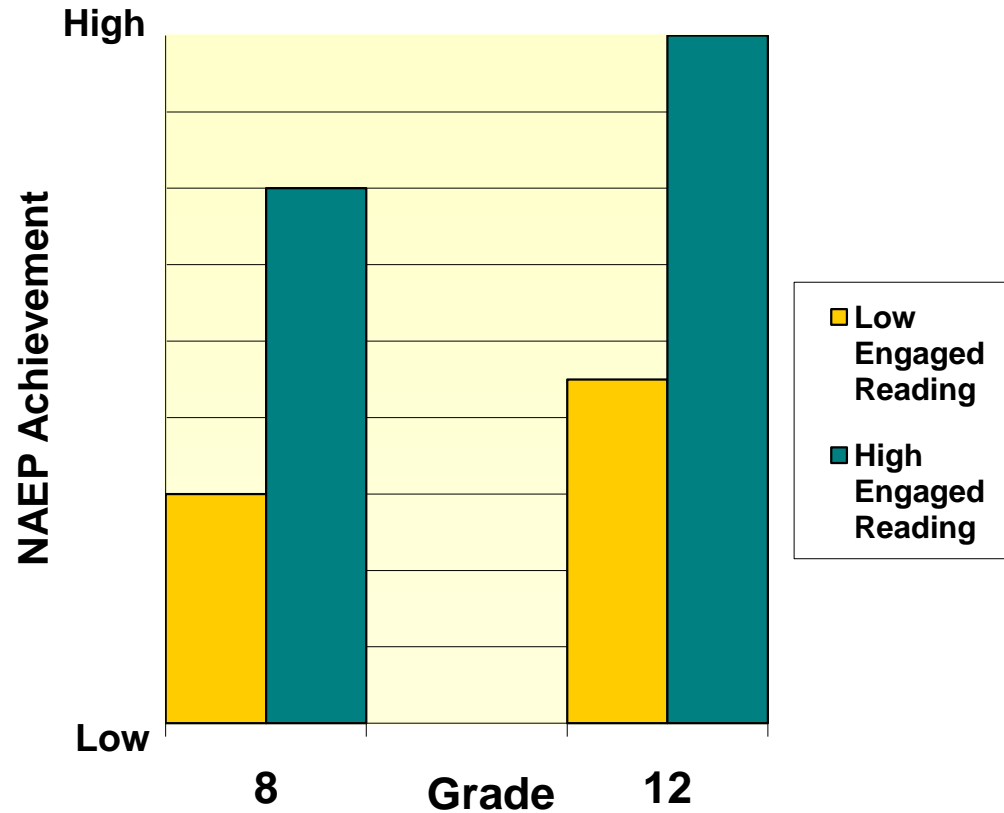
- ①本時のめあてに対して、できるようになったこと
- ②学習活動を通して、明らかになったこと
- ③工夫して考え、取り組んでみたこと
- ④仲間の考え・表現のよさ
- ⑤学びの中でさらに考えたい表現してみたいと感じたこと



カリキュラムの連続性と学校文化の中での言葉の育成

- 教科国語だけではなく、各教科（各単元内、単元間、学年間）での連続した意図的指導
学びの習慣としての言語活動の知識と技能の育成カリキュラム
- 教科書における言葉の問題
メタデイスコースの構成、教材の広がり
- 帯カリキュラム、特別活動等の活用
読書（10分間読書、協働読書会など）
スピーチ、朗読、
教科日記、生活日記、文集・本作り

没頭できる読み(学習)が学力の伸びを保障する



言葉の文化の中核としての図書館と メディアをめぐるカリキュラム



「自らの経験に光を与え、他人の経験からくる新しい光、世界の叡智の集積から来る新しい光を子どもに投げかける場所、新たな意味を見出し、自由な価値を与える場所としての学校図書館」

デューイ

「学校と社会」1957

「ことばを育てることは ところを育てること
人を育てること 教育そのものである。」

「話しことばは、そのひびきの中にこそ、
その人の心を聴く」大村はま

ご清聴ありがとうございました。

